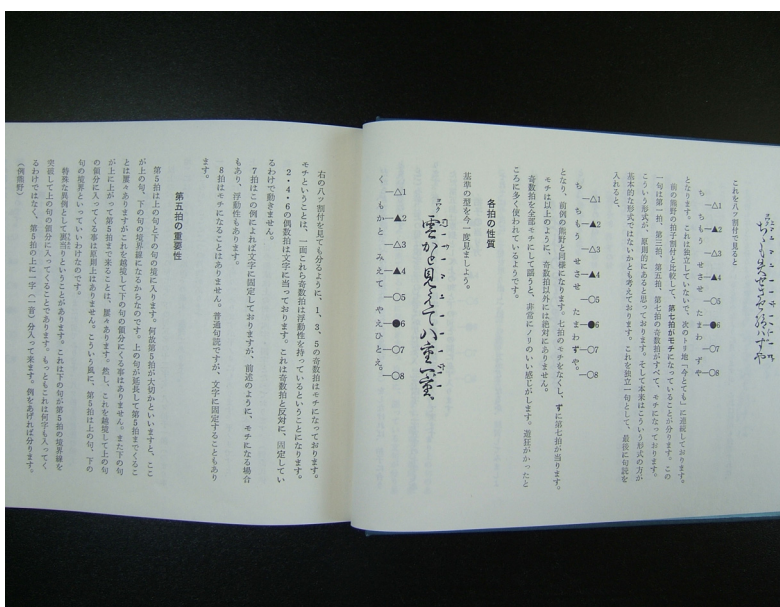


佐藤芳彦 『宝生流地拍子』

通常の割付け（「くーもかとーみえてーやえひとえ」）に対し、第七拍がモチになる（「ちーちもうーせさせーたまわーずや」）形式が「原則的にある」とし、「本来はこういう形式の方が基本的な形式」であると感じる（写真下）等、独自の発見に満ちた本。上句文字数と間の関係の説明の前に、本地本間に八文字や六文字が入る場合を説明し、増節の説明を行っている点、宝生流らしさがある。巻末には取り上げた句の索引がおかれ、曲どろしの比較にも便利である。謡の作曲法の手引ともなりうる本。



標題 内題…

標題紙…宝生流地拍子

奥附…宝生流地拍子

その他…宝生流地拍子（目次・背・函）

著者 奥附…佐藤芳彦

その他の場所…佐藤芳彦（標題紙・背・

函）

出版 版次…第一版

出版地…東京

出版社…わんや書店

出版年…昭和48（1973）

その他の場所…序 昭和48（1973）

形態 冊数…一冊十函 頁数…四五二頁

寸法…15×21（cm）

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考 宝生九郎校閲。